

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	輪之内町	学校名	輪之内町立輪之内中学校			
校長名	香田 静夫	対象学年	第1学年	人数	102名	
活動名	自然との共生について考え、地域の自然環境を守る活動を実践しよう！		時間数	32h	継続年数	6年
題材	① 自然環境（河川・動物・植物・その他）〔生物調査、水質検査、施設見学会、自然保護活動〕 ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等〔河川清掃ボランティア、地域行事参加、啓発活動〕					
複数年継続するための工夫改善	・自然環境保護に取り組む地域の関係機関や事業所等と連携して体験学習や実践活動を工夫し、郷土に根ざした地元密着型の環境教育を継続する。 ・大学や県、町行政と連携してフィールドワークや調査探究活動を工夫し、身近な環境問題への理解と解決を促す実効性のある環境教育を継続する。					

1 ねらい

◎揖斐川、長良川に囲まれた地域の豊かな自然について水質調査や現地での見学、聞き取り活動等を通して環境保護の大切さを学び、地域の人たちとの関わりを深めながらよりよい地域社会づくりに向けた取組を実践する。

2 活動の概要

(1) オリエンテーション（5月）

・「輪之内町環境副読本・中学校編」（H29.3刊行）を活用し、地域の豊かな自然環境を守る取組等について確かめ、自分との関わりから年間を通して探究することを明らかにする。

(2) 地域の自然環境を探る（6月～7月）

・校区の水路や用水に生息する水生生物の採集調査や河川等の水質調査を通して、身近な自然環境への関心を喚起するとともに、自然環境の状況や変化を科学的に分析し地域の特色ある豊かな自然環境を守っていこうとする意欲を高めた。

〔岐阜大学応用生物科学部・伊藤健吾准教授による指導・助言〕

・水生生物の種類や数量調査のためのフィールドワーク及び水質調査の方法、調査結果のまとめ方などについて指導助言を得た。身近な水路にもメダカ、ジャンボタニシ、アメンボウ、トノサマガエルなど、たくさんの水生生物が生息していることが分かり、実際に採集することで豊かな水環境を保全することや地域性について理解することの大切さを実感することができた。

(3) 自然環境を守る活動に迫る（9月～11月）

①「輪之内ふれあいフェスタ」への参加（10月）

・中学校用ブースを設置し、町内の水環境に関する調査結果を説明するとともに、自然環境保護に取り組む団体のブースでボランティアとして啓発活動に協力したり、会場の清掃活動に取り組んだりした。

② 地域施設の訪問活動（11月）

・自然環境を守る活動に取り組んでいる事業所や関係機関を訪問し、実際のような見学及び聞き取り調査し、自然環境を保護するための具体的な取組について学んだ。  
 ・地元の化学工場や資源リサイクル施設が地球温暖化対策やごみの減量、水質改善等の環境保護に継続して取り組んでいることを体感することができた。

区分	訪問した施設名
事業所	エフピコ、日本リファイン、エコカワムラ
関係機関	エコドーム、リサイクルセンター、輪之内浄化センター

<町内6箇所へ課題別グループで訪問・見学(全生徒)>

(4) 自然環境の保護活動の実践（5月、11月）

・「NPOグランドワーク輪之内」が主催する河川清掃活動にボランティアとして参加し、町内を流れる大樽川、中江川の清掃活動に取り組んでいる。  
 ・中江川沿いにある親水広場の壁画アートを美術部が制作した。輪之内町の花である「タンポポ」や町の鳥の「ひばり」、町のキャラクターの「カワタバモロコ」（絶滅危惧種）をモチーフに、地域の河川の水質改善を啓発することを目的として、縦約2メートル、横約13メートルの壁に設置するため、多治見市の協力を得て制作作業に取り組み、約33cm四方の板にタイルを敷き詰めて壁画を完成させた。

(5) 成果の普及・啓発（12月～2月）

・12月に開催される「平成29年度ぎふ清流未来の会議」（県環境生活部）において、環境学習の取組を県内外の小中高校生と交流し成果を発表する。その後、1月末には年間の学習のまとめを行い、保護者や地域の皆さんにホームページ等で発信する予定である。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

・地域の行事やボランティア活動への積極的な参加、町内の事業所等の見学を通して、環境学習の成果を地域住民にPRするとともに、地域で取り組まれている自然環境の保護活動に学びながら、一人一人が課題意識をもってよりよい町づくりに参画できている。  
 ・生徒が自然環境の保護活動に積極的に取り組んでいることが地域にも浸透しつつあり、町行政からの要請や住民の皆さんからの期待に応えようとする意欲が高まっている。

4 活動を通しての児童生徒の変容

- 小学校での学習を踏まえ、地域の河川等に生息する水生生物や水質について科学的に調査、分析する活動を通して、地域の特色ある自然環境(水資源等)への理解を深めている。
- 生活を豊かにする身近な自然環境に関心をもち、環境問題の解決に向けて自分たちにできる保護活動に、積極的に取り組もうとする意欲や態度が高まっている。
- 地元密着型の環境学習を継続してきたことで、地域住民との関わりを深めながら、自然環境保護という側面からよりよい町づくりに参画しようとする意欲や態度が高まっている。

【参考】 <<H29全国学調生徒質問紙調査\*よくあてはまる、どちらかといえばあてはまると回答した生徒の割合>>

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。(輪中：77.4%) \*県：62.1% / 全国：42.1%
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。(輪中：96.8%) \*県：83.2% / 全国：70.6%

